

第3回 旧公立藤岡総合病院利活用検討委員会会議 議事要旨

日時	令和元年8月29日(木) 14:00~16:00
場所	藤岡市役所 本庁舎2階 第5会議室
出席者	委員 14名(1名欠席) オブザーバー 3名(全員出席)

1. 開会

2. 委員長あいさつ

- ・前回の会議において、旧公立藤岡総合病院に関する市民の意見聴取会を実施することが決定し、8月7日に開催した。出席した委員に感謝申し上げる。市内の全地区に回覧で周知したものの、参加した市民は5名であった。意見聴取会の概要については、この後事務局より説明させる。
- ・今回で3回目の会議となり、予定の半分を消化することとなる。本日は提言書の重要項目である旧公立藤岡総合病院の利活用等に係る基本的な方向性について議論することとなる。市の将来を見据えて、必要なものを次の世代に残していけるよう、闊達な議論をお願いしたい。

3. 議事

(1) 事務局報告

① 旧公立藤岡総合病院に関する意見聴取会について

- ・事務局より「旧公立藤岡総合病院に関する意見聴取会」の概要について説明。

《開催日時》令和元年8月7日(水) 午後6時53分から午後8時6分まで

《会場》藤岡公民館 3階 大会議室

《参加者》市民:5名 委員:4名 委員会事務局:6名

《次第》1. 開会

2. 主催者自己紹介

3. あいさつ

4. 旧公立藤岡総合病院の現状等に関する説明

5. 旧公立藤岡総合病院に関する意見陳述

6. 総括

7. 閉会

《市民意見の概要》

- 現状の建物を活用して、特別養護老人ホームなどの高齢者福祉施設と児童館のような子どもが雨の日でも遊べる児童用施設とし、高齢者と子どもの交流の場となる複合施設として活用してもらいたい。

- 既存建物内部の写真を見ると活用は難しいとも感じるが、西病棟は鉄筋コンクリート造であり、平成 14 年には補強工事を実施している。主要構造部はしっかりしていると思うので、改修すれば他の用途に活用できると思う。
- 平成 28 年 10 月 15 日（土）に旧病院周辺で独自に住民アンケートを実施した。回答者数は 88 件。結果として「旧病院跡地をどのように利用すべきか（複数回答可）」との問いに対し、①高齢者の福祉施設（56 名）、②児童・青少年施設（10 名）、③民間に売却（7 名）であったことを説明。
- 新聞報道で藤岡の地価公示価格が下落していた記事を見たが、藤岡市の魅力が低下しているからと考えてしまう。旧病院の跡地には、藤岡市を PR できる施設、または高齢者対策の施設を整備してもらいたい。
- 大型スーパーが撤退したことにより、買物難民になったとの声を聞いている。特に衣料品の購入ができなくなったとのこと。
- 市役所庁舎が老朽化していると聞いているので、庁舎を移転することがよいと思っている。群馬藤岡駅と市役所を中心に、藤岡市を活性化する街づくりをしてもらいたい。
- 他市では、大規模施設の跡地にイベント広場を整備した例があり、様々なイベントが実施されて人で賑わっている。旧病院跡地も同じように整備されるとよいと思う。
- 既存建物内部の写真を見ると、老朽化のため活用は難しいと感じた。建物の再利用は費用が掛かると思うので、解体して新たな建物を建設する方法もあると思う。
- 集客力のある施設を建てて、街の中心がシャッター街にならないように再編をしてもらいたい。
- 市役所庁舎の移転も考えたが、駐車場の確保が難しいと思う。

《総括の概要》

- 旧公立藤岡総合病院の利活用によって地域経済の活性化を図り、市民の収入が増えるような仕組みを構築したい。しかし、その利活用にあたっては財政の問題もある。市民に負担を負わせないように考えたい。
- 参加した皆様の熱い想いを聞かせてもらった。意見の方向性としては「地域を豊かにする」活用法を希望するというので、検討委員会に報告する。

② 第 2 回会議の振り返り

- ・事務局より、令和元年 7 月 5 日（金）に開催した第 2 回会議の概要（議題①：藤岡市の現状及び課題等について、議題②：望ましい藤岡市の将来像や中心市街地の姿・あり方等について、に関する意見等）について説明。

（2）討議

議題① 望ましい藤岡市の将来像や中心市街地の姿・あり方等について（前回続き）

議題② 旧病院（中心市街地）に求める方向性について

【委員・オブザーバーの意見の概要】

- ・ 障害者福祉の観点では、現在の市の福祉部門が充実しているので、相談すればかなりのところまで進む状況である。そのため、障害者のために何か新しいものをやるのであれば、この場所を活用することも考えられるが、具体的な施設のイメージまでは思い浮かばない。

一方、子育ての観点から考えると、今の父母は家事などで忙しいため、子供が保育園に入るとなかなか一緒に遊べなくなる。子供とどう付き合うか、また、教育をどうしていくかはこれからの大きな課題である。

- ・ 所属する団体内では、これまで本委員会が出た意見の他に起業支援施設やシェアオフィス、商工会議所、ハローワークなどの機能を入れた複合施設を建てて働く人を支援するといった案や、それと併せて住居や飲食店のスペースも設けることで、夜間のにぎわいが生まれるような施設があれば良いという意見があった。また、現在、近隣の市で色々な公共施設などができてきているが、宿泊施設が足りないという話があるため、市内に宿泊施設を建てるとも良いのでは、という意見もあった。

現在の旧病院建物についても、活用方針が決まるまでは映画の撮影などで有効利用を図った方が良いとの意見もあった。

- ・ 高齢者向け施設に関して、2025年問題や2040年問題と言われているように、高齢者数は今後増えていく見込みではあるが、ピークとなる時期を過ぎれば高齢者数も減少に転じることとなる。そのため、新たに介護系施設などを建てても将来的には過剰な施設となる恐れがあることから、対応するのであれば既存の施設を拡充しておいて、将来的に不要となったらその部分だけ転用する、といった手法の方が効率的であると考えられる。

子育ての面からは、総合相談センターのような子育てに関する様々な相談事をワンストップで受けるような施設が今後は必要になってくると思われる。それに加えて、例えばシルバー人材センターのように高齢者が活躍できる場所や、病院のイメージを残した介護予防の拠点施設などを設けて、子供から高齢者までの世代間交流ができる施設とする考えもある。

また、旧病院の周辺地域は活気が少ないように思える。旧病院の跡地だけでショッピングモールを行うことは無理だと思うが、例えば統一的なステッカーやオブジェなどを用いて、周辺の店舗等も含めて一体のモールのように連携することができれば、にぎわい創出にも通ずると思われる。

防災機能について、市内に大きな拠点を一つ作るよりも、各地域に身近な防災施設を整備した方が実際に被災した際には避難しやすいため、旧病院の場所に市の拠点となるような防災施設を整備することは避けた方が良いと考える。

- ・ 所属団体内からは市庁舎の建て替えに関する意見が多かった。その他としては、

図書館が狭いこと、また、藤岡公民館の駐車場が図書館利用者にも使われていることから、図書館を移転することを提案したい。そして、図書館機能と合わせて地場産野菜などを使った飲食店や学生のための学習室などが併設されれば、市民の使い勝手が良くなると思う。

- これまで、複合施設に関する意見が多くあったが、子育て世代や高齢者といった層が議論の中心であったように感じる。しかし、学生世代向けの施設も入れることで、より幅広い世代間交流に繋がると思われるため、例えばダンスやバンド演奏の練習場といった若年層向けの機能も提案したい。

- 藤岡市の10年後、20年後を見据えた中では、コンパクトシティを目指して、街なかに人が住みたくなる環境を整備した方が良いと思う。そのためには、街なかに何があれば住みたくなるかを考えることが重要となる。

教育がテーマであれば、例えば図書館とそれに併設した学習室や夏休みの自由研究ができる場所などがあれば、学生にとってそこに行けば良い環境の中で勉強ができる、という魅力になると思う。更にカフェなどの食事ができる場所や本屋などがあっても良いかもしれない。

一方、健康増進というテーマで考えれば、ジムや高齢者向けの運動施設などが考えられるが、あらゆる年代層の人がそこに行けば健康増進を図れる、という空間ができれば魅力に繋がる。

様々な人がその場所に行けば何かを得られ、自然と人が集まるような空間を備えた施設ができれば、藤岡市に住みたいと思わせることができると思う。

- 生涯学習支援と子育て支援の機能があれば良いと考える。特に子育て支援は父母の安心した生活の支援に繋がり、転入促進の効果も期待できる。

既に市内に総合学習センターがあるが、社会人を対象とした生涯学習や、中高生のための学習支援機能があり、併せて子供たちが様々な悩みなどを相談できる場所があれば非常に良いと思う。それと共に、これまでに意見としてあったようなイベント広場やシルバーセンター、障害者の支援センターなどがあれば、様々な人が集まる施設ができる。

加えて、施設に来た人たちがそのまま帰るのではなく、周辺の店舗等にも立ち寄れるような動線を作れば、整備する施設を核として周辺地域も含めたまちづくりに繋がると思われる。

- 利用料金が安い総合学習センターなどは予約が一杯の状況である。しかし、意見のあったジムなどの比較的料金が高い施設の利用者は市外に流出している。そこが藤岡市の経済損失の一要因になっていると感じている。
- 意見を聞いていると旧病院の建物を使うという意見は一つも無い。現地視察や建物内の写真を見ても、既存建物は解体してから土地を利用することになると感じている。
- 複合施設とする場合、市庁舎の老朽化の話も出ているので、それも含めて必要なものは全て集約した方がトータルの建設費を抑えられると思う。

- ・意見聴取会でも市庁舎という意見が出ているが、要はお金の問題ということになる。
- ・10年後、20年後には市庁舎の移転を考えなければならない時期が来る。将来、更に人口が減少した時代にこの課題を残すよりは、今のうちに一部の機能だけでも移転を考えた方が次世代のためになると思う。例えば、商工会議所と市の商工部門だけでも移転できれば、市と会議所が連携して仕事や商業の相談に乗れるといった利便性が考えられる。
- ・市庁舎の建て替えが必要だとしても、移転ではなく現地建て替えというやり方もある。他の自治体では現地で建て替えた事例がある。
- ・施設に関する色々な意見が出ているが、その施設が街の活性化にプラスになるのか疑問に感じるところもある。市民の利便性も大事だが、街なかに人を集める要素についてもしっかり議論していただきたい。今ある施設を単純に移転しても、場所が変わるだけで発展性には繋がらない。
- ・実現は難しいと思うが、日本に一つしかないような施設が藤岡にできれば、全国から人が訪れると思う。
- ・中学生、高校生という年代は、将来の夢や希望に向かっていくこととなる大事な時期である。そのため、青少年の健全育成という観点についても考えていただきたい。
- ・意見の方向性とする、市民のための施設と、市外からも人を呼び込めるような施設という二つの方向性があり、それらを複合した施設という意見が大半であると思う。そして、市外から人を呼び込む施設については、他市町村と競合しないように考えていく、という整理になると思う。
- ・これまでの議論や意見聴取会での意見を踏まえると、子供から高齢者までの多世代が利用できる複合施設というものがメインであるように感じている。
今後の議論のポイントとしては、この旧病院の利活用が藤岡市のまちづくりにおいて、JR駅や市役所が周辺にあるという都市構造の中でどのような位置づけで議論をするのか。また、世界遺産である高山社跡や諏訪神輿などの歴史的資産に代表されるような地域文化や、シルバー人材・障害者・大学生や地場産品などといった地域資源をどのように生かしていくか、というところが挙げられる。例えば、この地域にしかないものを生かした施設であるとか、地域文化を子供たちに学ばせるための仕組み作り、などの議論も興味深い。
その他に、施設整備をする場合、特定の用途に特化した建物にすると後々使いづらくなるため、ある程度フレキシブルな構造にした方が良い。
- ・藤岡総合病院は、市民の心と体を支えてきた施設である。そのため、その跡地については地域や市民のためになる利用をしたいという想いがある。
議論を総括すると、ポイントは以下の点になると思われる。
 - 既存の建物は解体して新しい施設を建てる。
 - 市民サービスを徹底するのであれば、庁舎を中心として、子供から高齢者まで

の交流や健康面の促進など、全ての要件を満足できるものとする。

○市外から人に来てもらって、お金を落としてもらえようような機能を備える。この「稼ぐ」という点も重要と思われる。ただし、行政では苦手な分野だとも思う。

○これまでの意見の全ての要素を取り入れると要点が不明瞭になるとともに、施設整備費用も膨大になってしまう。今後の議論では財政面も考慮して整理していく必要がある。

○「稼げること」「人口が増えること」「市民生活が安定すること」の3つの要素に加えて、なるべく費用を掛けないようにして旧病院の跡地を活用したまちづくりを行い、藤岡市が県内一の市になれるよう提言したいと考えている。

・前回の会議と本日の意見を踏まえて、提言書の骨子を整理していくこととする。

※次第に記載されている議題③「旧病院の活用に係る具体的な機能・施設の案について」は、時間の都合により次回に持ち越しとなった。

4. その他

事務局より、次回の会議を10月中旬に開催したい旨を説明し、次回会議の予定議事について、各委員及びオブザーバーの所属団体内で意見収集と整理を行うよう依頼した。

5. 閉会